# 第108回関西地区経済同友会会員合同懇談会

「安心安全な社会の構築に向けて～医療集積の地　岡山から過去・現在・将来を見る」をテーマに9日、岡山市内で開かれた第108回関西地区経済同友会会員合同懇談会。医療・福祉分野と岡山経済同友会の5氏が、プレゼンテーション「医療・福祉の集積が地域住民の生活の質と地場企業の持続可能性を高める」で意見発表。伊藤元重東京大大学院教授の記念講演「日本の医療の課題」を通して今後の地域や地場産業の在り方を探った。（9面関連）

## 医療福祉の原点と地域展開

## 末光　茂氏

### 誇り持てる街へ活動

岡山県は、多くの偉人を生み出し国内の医療・福祉をリードしてきた。一人が富士山のようにそびえ立つのではなく、優れたリーダーが連峰のように連なってきたと言える。

古くは、和気清麻呂の姉で孤児の救済に取り組んだ広虫や、江戸時代の蘭方医・緒方洪庵、日本初の孤児院を創設した石井十次ら。そして故・川﨑祐宣氏が挙げられる。

川﨑氏は、専門の医師が医療と密着した福祉を行うため、肢体不自由児施設、乳児院、知的障害児施設からなる旭川荘（岡山市）を1957年に創設した。「敬天愛人」の精神は、第2代理事長・江草安彦氏へと受け継がれた。現在は岡山県内をはじめ、愛媛県や中国・上海市などグループは84施設に広がっている。

高梁市では身体障害者支援施設や診療所、老健施設などを運営。医師やスタッフが支え合いながら、質の高い医療と福祉を提供し、地域から高い評価を得ている。

人材育成にも力を入れ、71年に看護師らを育てる旭川荘厚生専門学院（岡山市）を開設。91年には江草氏が初代学長を務めた川崎医療福祉大（倉敷市）が開学し、多くの専門スタッフを輩出している。障害者雇用にも取り組んでおり、食堂や清掃関係の会社には127人の従業員がいる。

少子高齢化が進む中、安全で安心して暮らし、誇りを持って生涯が終えられる地域づくりには医療・福祉の整備が不可欠。今後も地域住民や行政と一体となった活動を進める。

**すえみつ・しげる**　1967年岡山大医学部卒。旭川荘旭川児童院に入り、同児童院院長、旭川荘副理事長などを経て、2007年から理事長。川崎医療福祉大特任教授。国際知的障害研究協会日本代表理事。松山市出身。67歳。

## 救える命があればどこまでも～国境を越える福祉

## 菅波　茂氏

### 世界の人道支援拠点

世界には見解の違う人たちがいるが、どうしたら共存共栄できるか。私たちの考えは相互扶助だ。尊敬と信頼の新しい人間関係ができたときこそ、一緒に行動できる。

災害が起きれば、緊急救援チームとして世界30支部からの多国籍医師団が被災地へ駆け付ける。ネットワークがあればさまざまな要求に応えられる。

活動の原則は何をするかより、なぜするかが大切。そしてなぜ助けるのかというメッセージを送ること。人は誰でも他人の役に立ちたい。その気持ちに民族、宗教、文化の差はない。

援助を受ける側にも社会の役に立ちたいというプライドがある。発展途上国では意欲と能力のある医師がいても他国へ行く資金とチャンスがない。AMDAは多国籍医師団としてそうした医師にチャンスを与えている。人間関係こそが世界平和にとって一番大切だ。

1995年の阪神大震災の際、岡山は県民を挙げて救援活動にあたった。岡山にはそうした福祉の心が根底にあると思う。

われわれは「西のジュネーブ　東の岡山」と提唱してきた。岡山を世界の人道支援の集積地に、との意味だ。

弱者を見捨てない精神風土を基に、岡山の人道支援外交をテーマに活動を展開したり、岡山市などに車いすで楽しめる都市空間をつくるのもいい。世界に発信できるメッセージとなり、地域振興にもつながる。

新たなブランドを打ち出してはどうだろう。例えば、市民参加型の

**すがなみ・しげる**　1972年岡山大医学部卒、77年同大大学院医学研究科修了。84年AMDA設立。世界30支部と連携し、医療・保健衛生分野を中心に緊急人道支援活動を展開。公設国際貢献大学校名誉校長。福山市出身。63歳。

## 産学官連携による医療機器開発

## 中島　基善氏

### 医師の発想や夢　形に

1926年から船舶用プロペラを造ってきた。その加工技術などを生かせる新たな事業として90年代から人工関節を始め、ナカシマメディカルを設立した。

医療分野の特徴は営業と開発が双方向で成り立っている点。取引先である大学の医学部などと共同開発するケースが多い。手術にあたるドクターがユーザーであり、ニーズに基づいた技術開発ができる。ドクターの発想や夢を形にすることが付加価値だと考えている。

医療分野はスタートは難しいが、産学連携の環境は整っており、さまざまなニーズが引き出せる。大学などと95年に「人工関節機能高度化研究会」を立ち上げ、これまでに80回以上開催した。6月には、経済産業省の補助を受け、岡山大や岡山理科大、東京大などと研究開発にあたる新たな「R&Dセンター／先端イノベーション拠点」を岡山市内に開設した。

われわれは、日本人のために、日本人による人工関節づくりを志してきた。ひざ関節は、いすに座る欧米人の場合、90度曲がればいいが、畳に座る日本人は130度まで曲がらなければいけない。プロペラも人工関節も一品受注生産であることに変わりない。

医療分野に進出して一番うれしいのが、患者が良くなって喜んでもらえること。人工関節の国内市場は海外製品が約90%を占め、当社のシェアはまだ1%程度だが、患者の役に立つ製品をつくり、成長させていきたい。

**なかしま・もとよし**　1971年早稲田大政経学部卒。74年ナカシマプロペラ入社、96年社長。2008年11月、持ち株会社制移行でナカシマホールディングス社長、ナカシマメディカル会長。岡山経済同友会代表幹事。岡山市出身。62歳。

## 気概に感心／刺激受けた／観光連携を／地域へ拡大

### 参加者の声

参加した各地の同友会会員からは、医療・福祉産業の育成を目指す岡山の取り組みを評価したり、連携を望む声が上がった。

「地域性を生かし、独創的な産業にまで高めようという気概に感心した」と話すのは、**関西経済同友会の丸岡利嗣氏**。「高齢化が進む中、医療・福祉産業は需要拡大が見込める。発展の起爆剤にしてほしい」と言う。

**広島経済同友会の高木一之代表幹事**も「発表者の思いや志に刺激を受けた。岡山を見習い、広島のものづくりの伝統を大事にしたい」と語った。

中国などアジアからの観光客の誘致に力を入れる**福岡経済同友会の坂野義政氏**は「岡山は医療観光の受け皿になり得る。広域の観光ルート構築に向け、連携を模索したい」と期待。

岡山経済同友会とさまざまな連携事業を行う**香川経済同友会の木村大三郎特別幹事**は「岡山と香川は一体的なエリア。力を合わせ、産業育成の取り組みを瀬戸内地域に広げていきたい」と強調する。

参加した各地の同友会会員。医療・福祉産業育成を目指す岡山の取り組みに聞き入った